

わらべうたで遊ぶ



青空保育たけの子では、朝の会の時にわらべうたを取り入れています。

朝の会では、このわらべうたの他に、へおうちのルールへ月ごとの詩の朗読へおやつ配りを行うことにして、ひとつの袋から、子ども達が順番に好きなものを取り出して行っています。

以前は、保育者が順番を決めて行っていたのですが、それだと子ども達が自主的に参加していないなど感じたので、今のスタイルになりました。

へわらべうたも、あらかじめいくつかのカードを入れておいて、そこから子どもたちが選ぶという方法をとっています。とにかく、「自分で選ぶ」ということを常に意識させたいと思っています。

◇わらべうたは変化する

わらべうたは、その名のとおり、子ども達が自分達で創り上げてきたものです。なので、時代と共にリズム、内容、音程などが変化してきました。

一番わかりやすいのは、「おてらのおしょうさん」ではないでしょうか。わたしが知っているのは

おてらのおしょうさんが

かぼちやのたねのまきました

めがでて ふくらんで

はながさいたら かれちやって

にんぼうつかってそらとんで

ぐるりとまわってじゃんけんぽん

なのですが、「そらとんで」あとにとうきようタワーにぶつかって

がはいり、今では、「スカイツリー」になり「きゆうきゅうしゃではこぼれて」が入るようです。

時代を反映しているのがおもしろいですよね。

◇わらべうたと童謡はちがう

子ども達の遊びの中で自然発生的に生まれ、受け継がれてきたわらべうた。でも今は大人が継承して伝えていかないと消滅してしまう危機にあります。

わらべうたは、その遊びの中で生まれているので、コミュニケーションを円滑にし、複数で行いルールがあることから社会性を育むものであると考えます。

また、日本人が元々もっている音階は西洋音楽(7音階)にある半音(ファとかシとか)が無いのが特徴で、ペンタトニックスケール(5音階)でできています。

なので、大人が子ども向けにつくった童謡とは違うのです。

わらべうたは音楽のおっぱい。子どもが初めて触れる音楽は、わらべうたであってほしいとわたしは思います。

◇やさしい空間をつくるわらべうた

子ども達は自己主張の塊です。自分がしたいことがしたいし、友達がしていることがしたいのです。そして、子どもの時はそれでいいのです。自分がしたいことをがまんばかりしては子どもへの心は育っていきません。へ自分というものがあって、初めてへ他者がわかるのです。自分はこう思うことは相手もそうなのかと気づくには、まず、自分の気持ちに正直に生

きることです。

でも、そうなるとう然ぶつかります。物の取り合いになります。そんな時、わらべうたで返せばなんとなく、空気がやわらぎます。

「かしてー」「だめー」というやり取りよりも「かくして」「あゝととと」という方が。

この「かくして」のやりとりは、レド・レで行われ、自然に5音階を使っています。まさに音楽のおっぱい。わらべうたなんか歌ったことないわ、という方も、友達と「あゝととと」と言い合ったりした記憶があるのではないのでしょうか。

そう。わたし達はいつの間にかわらべうたを歌っているのです。

創造性を育み、社会性やコミュニケーション能力を育むわらべうた。

まずは親子でお手合わせ、してみませんか？

辺見妙子

木登りができるようになった年長さん

